

第 1 回 福井市水道事業ビジョン策定委員会 議事録

日 時	令和 6 年 6 月 2 4 日 (月) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0
場 所	上下水道局庁舎 3 0 1 会議室
出席者	<p>< 委員 > 高島委員、田村委員、南保委員、前川委員、吉川委員</p> <p>< 上下水道局 > 前田上下水道事業管理者 坂下経営部長 南京事業部長 朝倉経営次長 内田事業次長 経営管理課 (箕手課長 塚本副課長 辻課長補佐 伊藤主幹 中川主幹 野阪副主幹) 上下水道サービス課 (塚本課長) 水道管路課 (山本課長) 水道施設課 (細川課長)</p>
会議録	
<p>1 委員長、副委員長選出 委員長に南保委員、副委員長に高島委員を選出</p> <p>2 議題 1 福井市水道事業ビジョン中間見直しの趣旨と進め方について ～ 事務局より説明後、質疑応答～ 質疑なし</p> <p>3 議題 2 現行ビジョンの概要及び各種指標の進捗状況等について ～ 事務局より説明後、以下質疑応答～</p>	
委員 事務局	<p>原水水質監視度について、水質検査の実施頻度を知りたい。 水質検査項目である 51 項目については毎月検査を実施しており、 それ以外の項目についても年 1 回又は 2 回の検査を実施している。</p>
委員 事務局 委員	<p>PFOS や PFOA の検査結果について市は公表しているのか。 基準値未満であるとの検査結果をホームページにて公表している。 報道等で話題になっていることもあり、大変良いことなので、より 積極的に広報していくべきである。</p>
委員 事務局	<p>鉛製給水管について、R10 の目標達成にかかる事業費は算出できるのか。鉛製給水管の解消に向けた課題はあるのか。 事業費の算出は難しい。解消に向けた課題にもつながるが、給水管 はお客様のご負担で購入して設置されているものであり、市で勝手に 取替を進めていくことができない。よって、お客様に取替を呼びかけ</p>

委員	<p>て、取替を実施していくことになる点に困難さがある。</p> <p>鉛製給水管はいつ頃まで使用されていて、どのような管に取り替えるのか。</p>
事務局	<p>全国的に 1980 年代の後半まで使用されており、現在ではポリエチレン管等への取替を進めている。</p>
委員	<p>鉛製給水管の健康への影響について詳細を教えてください。</p>
事務局	<p>通常通りに使用する分には健康上に影響を及ぼすものではないが、旅行等で長期間水を使用しない場合には、基準値を超える可能性があるため、そのような場合はバケツ一杯分の水を飲み水以外の用途で使うことをおすすめしており、市ではホームページや上下水道局の広報紙を通じて、周知啓発を実施している。次回来月末に発行する上下水道局広報紙でもお知らせする予定である。</p>
委員	<p>給水管所有者の問題であることから目標達成は難しく、市として目標値の管理がしにくい面は理解できる。市民の皆さんに安全性に関することや取替の重要性が伝わるように広報することが重要である。</p>
委員	<p>配水池の清掃について、令和 5 年度には目標達成しているが、それまでは目標を下回って推移しているが、理由はあるのか。また今後は 100%の目標を達成できる見込みなのか。</p>
事務局	<p>令和 4 年度以前に 100%を下回っている理由としては、配水池を築造したことに伴って、配水池の容量自体が大きくなったためである。清掃については計画通り実施しており、今後も計画通りに 5 年毎に実施していく見込みである。</p>
委員	<p>浄水場事故割合について、目標値の定義が悩ましい部分がある。確かに事故は起こしてはならないが、発生した場合、改善策や未然防止策などの取組こそが重要である。</p>
委員	<p>耐震化全般について、各施設において耐震化を進めているが、利用者から見れば、末端まで耐震化が実施されて初めて耐震化を享受できるため、水道施設全般の耐震化を進めていく必要があるだろう。</p>
事務局	<p>ご指摘の通り、各種の水道施設それぞれを耐震化しないといけない。本市では、浄水場に関しては福井市でも大部分を占めている九頭竜浄水場の耐震化に向けて取り組んでいる。また配水池については、原目配水池の耐震化を進めており、管路については、災害時に重要となる重要給水施設配水管路や基幹管路など優先順位が高いものの耐震化を進めている。</p>

委員	<p>管路の耐震化について、耐震化できている面積割合で算出することは可能か。</p>
事務局	<p>面積での算出は難しく、耐震化された管路の延長で算定している。</p>
委員	<p>耐震化された管であれば、能登半島地震のような震度7にも耐えうるのか。</p>
事務局	<p>はい。最大震度7に対応できる管にて更新を実施している。</p>
委員	<p>内部研修時間について、令和4年度実績が下降している理由は。</p>
事務局	<p>新型コロナウイルス感染症の予防という観点から、集合形式の研修を取り止めていたことが影響している。令和5年度は少し回復しつつあることから、当初の目標値の達成に向けて研修を充実させていきたい。</p>
委員	<p>技術職員の減少によって、技術の継承が難しい面もあるのか。</p>
事務局	<p>委員ご指摘の通り、技術職員数自体が減少していることに加えて、上下水道局の在任期間が短くなっているという、市全体の人事異動サイクルによることも影響している。そのような中でも、技術の継承は重要であることから、職員研修を充実させることによって、人材育成に取り組んでいきたい。</p>
委員	<p>上下水道局としては、カーボンニュートラルについてはどのように取り組んでいるのか。</p>
事務局	<p>森田浄水場に太陽光パネルを導入している。</p>
事務局	<p>次回の委員会にて、事務局としては目標値の見直しについて提案させていただこうと考えている。具体的には、鉛製給水管の残存率や浄水施設の耐震化率については現状に見合った数値への下方修正を、一方で、原水水質監視度や水道施設への見学者割合については上方修正を考えている。</p>
委員	<p>策定時に掲げた目標値について、中間地点でその目標が達成できれば、新たな目標に置き換えることも1つかと思う。また、目標値の達成は重要であるが、目標値を達成するための取組の過程が最も重要であると思う。数値の見直しとあわせて、目標値を達成するための取組内容についても検討していったほしい。</p>
事務局	<p>第2回委員会案内... 8月下旬 14時～ 301会議室にて開催</p>